

スポーツ科学研究科【教育課程の編成・実施方針】

総合科学としてのスポーツ科学の特徴をふまえ、その教育システムとしてスポーツ科学研究科は 5 つの学系を設けている。学生はいずれかの学系に所属する。各学系の特色は次のとおりである。

【スポーツ文化・マネジメント学系】

スポーツを幅広い問題意識のなかで捉え、文化・社会科学的方法論に即して分析・検討を加える学系である。思想・文化・歴史・社会・教育・政策・法律・経営・経済など文化事象・社会現象・制度として認識されるスポーツにおける諸問題の解決に資する研究を行う。

【身体教育学系】

身体教育学系は、「身体」と「心」について発育発達学・教育学・認知行動科学・脳科学の研究手法で探求する学系である。身体と心の発達・発育・加齢による変化、教育現場やスポーツ現場での様々な問題、身体運動制御・学習や認知のメカニズムなど、研究テーマは多岐にわたる。

【スポーツ生理学系】

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する学系である。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

【スポーツ健康科学系】

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っており、これら諸要因と健康の関連を研究する。主な研究分野は、スポーツ医学とヘルスプロモーションである。スポーツ医学分野ではスポーツ傷害発生の要因、予防を様々な観点から研究し、ヘルスプロモーション分野では個人・集団の健康とその決定要因をコントロールし、改善するための研究を行う。

【応用スポーツ科学系】

バイオメカニクスを研究の主軸としつつ、他の様々な研究手法（生理学、心理学、教育学）を取り入れながら、現役アスリート、コーチおよびトレーナーらと共に分野横断的な学際研究を促進する。研究によって得られた成果を新しいトレーニング、コーチングなどに応用することが目的である。

教育研究上の目的および学位授与の方針に基づき、本研究科は5学系を基盤とする以下に示すような教育課程を編成し実施していくこととする。

博士前期課程は、各学系別に講義および演習（専門選択科目）を配置する。博士前期課程の目標は研究者の養成ばかりではなく高度の専門性を備えた職業人の養成にも置いているので、できるかぎり多彩な科目を用意することを心掛けている。それに加えて、共通必修科目として「スポーツ科学研究総論」「スポーツ科学研究法ⅠA・ⅠB」および共通選択科目として「スポーツ科学研究法Ⅱ」「スポーツ科学研究法ⅢA・ⅢB」を置く。さらに、複数教員が参加し集団指導にあたる各学系の「セミナー」および個人指導を中心にした「研究指導」各8単位の計16単位を専門必修科目とし、これらを含む32単位以上の履修を必要とする。

また、博士後期課程の目標は主として自立した研究者を養成することにあるので、教育の中心は複数教員が参加し集団指導にあたる各学系の「セミナー」および個人指導を中心にした「研究指導」に置かれている。セミナーと研究指導各12単位の計24単位を必修とし、この他に各学系の「特殊研究A・B」4単位を含む28単位以上の履修を必要条件とする。

研究科全体のカリキュラムの一つの特徴は、総合大学である利点を活用し、本学にある他の研究科との単位互換制度を取り入れていることである。